

27年漁期 するめいか漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABClimit					TAC				備考
		水準	動向	24年	25年	26年	27年	漁獲シナリオ (管理基準)	24年	25年	26年	27年 (案)	
するめいか	<p>【中期的管理方針】 高、中位にある資源が海洋環境の変化により大幅減少に転じる可能性があることから、資源動向の把握に努めつつ、海洋環境条件に応じた資源水準の維持を基本方向として管理を行う。資源水準の変動に際しては、関係漁業者の経営への影響が大きくなりすぎないように配慮を行うものとする。</p>												<p>【27年TAC設定の考え方】 冬季発生系群及び秋季発生系群について、中期的管理方針に則して、ベースとするABCを漁獲シナリオ③又は②親魚量の維持の予防的措置(冬季発生系群19.4万トン、秋季発生系群40.2万トン)とし、これらの合計値に基づく59.6万トンから、韓国の直近5年平均の漁獲量17.1万トンを控除した42.5万トンをTAC数量とする。</p>
	冬季発生	中位	横ばい	27.1	25.1	19.3	19.4	親魚量の維持の予防的措置(③)					
	秋季発生	高位	横ばい	38.6	39.7	28.1	40.2	親魚量の維持の予防的措置(②)					
合計				65.7 (33.9)	64.8 (32.9)	47.4 (30.1)	59.6 (42.5)		33.9	32.9	30.1	42.5	

(注1) 下段()書きについては、日本EEZの値。25年までは我が国EEZにおける漁獲割合から算出。26年以降は合計値から韓国の直近5年平均の漁獲量を控除して算出。

(注2) 26年のABCは管理期間を1月～12月から4月～3月に変更し、再計算した値。

【資源評価結果】

<参考> Blimitと親魚量

	資源の状態		資源量(親魚量)の状態	漁獲シナリオ (管理基準)	2015年 漁獲量 (万トン)	評価		2014年 親魚量	Blimit
	水準	動向				5年後に 2014年親魚 量を維持す る確率	5年後に Blimitを維持 する確率		
冬季発生系群	中位	横ばい	>Blim	ABClimit				30.1万トン	親魚量 19.0万トン
				*① 親魚量の維持(Fmed)	23.3	49%	74%		
				*② 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	21.3	62%	84%		
				*③ 親魚量の維持の予防的措置(0.8Fmed)	19.4	73%	90%		
秋季発生系群	高位	横ばい	>Blim	ABClimit				111.3万トン	親魚量 40.1万トン
				*① 親魚量の維持(Fmed)	48.6	17%	77%		
				*② 親魚量の維持の予防的措置(0.8Fmed)	40.2	24%	83%		
				*③ 現状の漁獲圧の維持(Fcurrent)	23.5	36%	91%		

注) *のついたシナリオが中期的管理方針に合致する。

(参考)

近年の韓国のするめいか漁獲実績※1

(単位:トン)

漁期年(平成)	冬季発生系群	秋季発生系群	合計
15年	83,602	159,934	243,536
16年	68,036	130,975	199,011
17年	64,966	122,657	187,623
18年	74,241	126,737	200,978
19年	75,429	92,892	168,321
20年	65,805	109,570	175,375
21年	69,690	114,881	184,571
22年	72,285	97,340	169,625
23年	100,111	79,182	179,293
24年	68,876	88,514	157,390
25年	85,722	77,910	163,632

直近5年平均	79,337	91,565	170,902
平成27年ABC	194,000	402,000	596,000

※1: 日本EEZにおける韓国の漁獲は除く。

注1. 赤の数字は直近5年間の最大漁獲量

注2. 青の数字は直近5年間の最小漁獲量